



HOME &gt; What's Studie &gt; MEDIA MIX &gt; Photo Contest &gt; 2011年

## What's Studie

Studieのコンセプトや  
取組みなどをご紹介します

### CONCEPT

TDMMC
Tuning
Dressup
Maintenance
Motorsport

### MEDIA MIX

Magazine
Photograph
Youtube

### EVENT

BMW Familie!
Familie! Westen
Car Show
Circuit
スタミ。
ミチノクオフライン
こら〜れ

### ARCHIVE

ARCHIVES
----------

## Studie Photo Contest 2011



wataさん

Title : intermission

雑誌に携わる職業柄、撮影の後、カメラマンから写真がアップされるまでワクワクした時間を過ごせる。どんな写真が届くのか？もし届いた写真の中に、次のような写真があれば最高だ。具体的には「まるで音が聞こえてくるような写真」。タイヤのスキール音や、エキゾーストが聞こえてきそうなくらい臨場感のある写真。この作品はまさしくそれで、松の葉がすれる音、向こうの浜辺で波が崩れる音まで聞こえてくる。さらには心地よい潮風が頬に触れる感覚も、潮の香さえもある。写真の真髄とは、見る者の脳を、その想像力をどれほど刺激するかによるのではないだろうか、改めて思わされた一枚だ。

【Creative Director NAKAMURA BUNTA】

### Studie Photo Contest 2011

募集期間：2011年2月17日～5月31日

テーマ：海とBMW

応募総数：178点



3難題は来年への壮大な前振りだったとか！（なんて絶対思っ  
てませんよ、あのヒトは……笑）そんなことはさておき、今回も力作揃いでありました。出尽くした感のあるリングやキドニーの表現もちょっと変わってきましたし、全体的に難しい逆光の写真に挑戦していた作品が多かったですね。さて来年、山とBMWですが、次こそ「走り」の写真があってもいいなぁと個人的には思っております。走りを感じさせる写真も大いにアリです！



少し言葉遊びが許されるなら、写真はちっとも「写実的」でなんかないと思っている。目の前に広がる世界は立体空間であって写真は縦と横の平面。つまりカメラとは3Dを2Dに変換するための次元変換デバイスであり、変換するときには撮影者の意図や嗜好によって大胆に主観が込められる。写実的というより、どんなに何気ない一枚も抽象的で創造的だろう。毎度のことながら、そんな創造力あふれる作品に点数を付けるのは気が引けるが、どうか“お祭り”だと思っ  
てご容赦ください。そして楽しんでいただけたら幸いです。



今年も多くの素晴らしい作品の審査をさせていただきます。ご応募されたみなさん、お疲れ様でした。例年よりも応募数が若干少ない中、ハイレベルな作品が多いコトに採



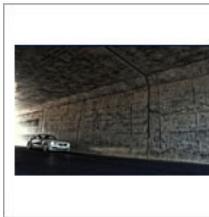
準優勝★★★★★★★★

COBAーさん

Title : にっぽんの夜明け・・・希望！

物質文明に生まれた私たちは、物質を謳歌する権利をもっている。それは際限のない謳歌ではなく、責任をともった権利。次の世代を築く、本質的な豊かさとは…。そういったテーマを凝視したときに現れる無限の広がり。この作品には、そんな広がりを連想させるチカラがある。

NAKAMURA BUNTA [Creative Director]



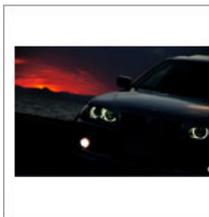
第3位★★★★★★★★

オーデマピゲピゲさん

Title : 駆け抜ける暗闇

空間と光のコントラストが美しく、主役のクルマが際立ち、またヘッドライトを点けたコトによりメリハリがある。ナイスなロケーションのオイシイとこ総取りの構図と広角レンズを上手に使った印象的な作品です。

SHIMAZAKI TOMOHIITO [Photographer]



第4位★★★★★★

s-g-r@M54さん

Title : Last moment.

BMWという爽やかな印象がありますが、まったく逆の怖い感じの絵作りが抜きん出ていました。ボンネットのグラデーションとリングのコントラストがBMWらしさをよく表しています。夕暮れの表現も絶妙でした。

KUMASAKI KEISUKE [afimp 編集長]



第5位★★★★★★

nakariverさん

Title : 夜空のさざなみと...

旅立つのは彼が、それともisか。ボディに映り込むのはライトアップされたエアポートであり、そして鮮やかな思い出。別れの瞬間に浮かび上がった後悔を、自ら断ち切るようにシャッターを押しただろうか。写真は嘘をつかないと気付かされる作品。

NAKAMURA BUNTA [Creative Director]



第6位★★★★★

masa3さん

Title : skylight

まるでカタログの1ページのような重厚でインパクトのある作品。ディテールを出しつつも、陰と陽を巧みに表現した作者のセンスが伺えます。ロケーションも良く、雲の重々しさが作品に深みを与えている。

SHIMAZAKI TOMOHIITO [Photographer]



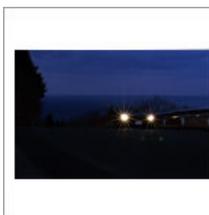
第7位★★★★

ぎゃんぞーさん

Title : Moby-Dick

何気ない置き方ですが、橋の入れ方や波打ち際の位置など、うまい構図だなと。大きなX5なので、そのまま画面いっぱいになってしまいましたが、ボディの大きさも見せつつ、一枚の絵として成立していると思います。

KUMASAKI KEISUKE [afimp 編集長]



第8位★★★

yoshi326s4さん

Title : またいつの日か...

いつかた道を再び行くこともあれば、二度と走ることのない道に行くこともある。道を切り開くのも、道を選ぶのも自由。選んだ道を歩むことにおいて、そのすべてを背負う気概が伝わってくる作品。

NAKAMURA BUNTA [Creative Director]

点中に気づきました。今回で5回目のフォトコンですが年々レベルが上がっているのが伝わり嬉しく思います。みなさんのセンス溢れる作品を審査するのは毎回難航して大変ではありますが、それだけ写真熱が高く、熱いんだなと実感しました。ぜひ来年も我々審査員を悩ますくらいの力作、大作をお待ちしています。



Studie [スタディ]

第9位★★

AHG 135さん

Title: ブラック (-\_-;) ならでわああ…かなあ??

ボディをキャンバスにした視点が面白い! 確かにブラックボディならではの作品。画面いっぱいのフレーミングの仕方とても上手くシンメトリーな構図がとっても好感が持てます。

SHIMAZAKI TOMOHITO [Photographer]



第10位★

tknさん

Title: ギリギリ

ポンっと置いてパシャッと撮る。これが案外いい絵になったりします。潮が満ちてきて焦ったというコメントですが、波打ち際まで行ったことのできた写真ですね。太陽の位置やクルマの振りが変わるとまた違う雰囲気になるでしょう。

KUMASAKI KEISUKE [afimp 編集長]